

第44号 発行日 平成23年10月

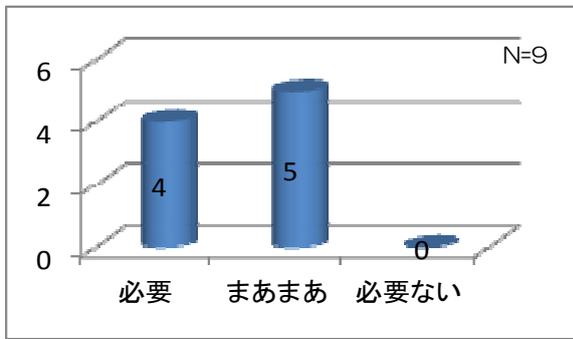
日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
 診療報酬・介護報酬の同時改定を前に、各医療施設では、「介護連携パス」が作成され始めています。
 当室では連携の要となる「看護サマリ」による情報共有の状況について、ケアマネージャーに引き続き、看護師を対象に調査いたしましたので、その一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

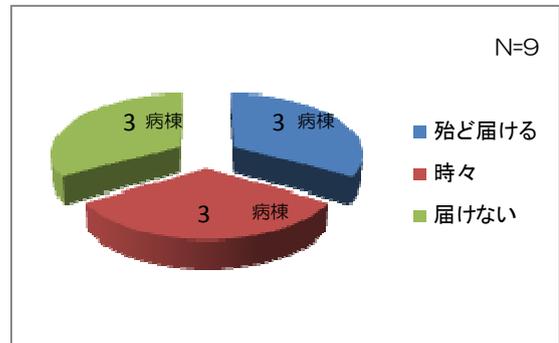
看護サマリによる介護連携について（病棟看護師）

1. 調査目的 看護サマリーによる介護連携の課題を明らかにする
2. 調査期間 平成23年9月13日～20日まで
3. 調査対象 病棟看護師（病棟単位 11部署中9部署が回答 回答率 81%）
4. 調査結果

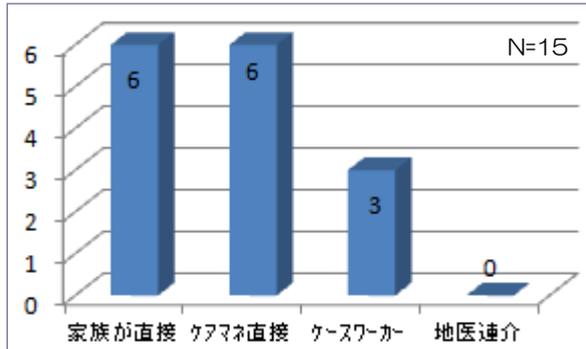
1) 連携上、看護サマリは必要ですか？



2) 看護サマリは、ケアマネに届けていますか？



3) ケアマネとの連携方法は？（複数回答）



4) 看護サマリを届ける方法（複数回答）



ケアマネとの情報共有に関する意見

- ・退院後の生活状況に変化がある場合、又は、入院中の状態も含めて、情報を共有する必要があると思う。（同意見 4件）
- ・看護サマリの内容だけで状況の理解が可能か？ ケアマネが必要とする情報は何か？ 看護師経験者と経験のないケアマネの違いもあるので、ポイントをあげてもらい、サマリに記入する方が良いのではないかと？
- ・退院前に、ほとんどのケアマネが情報収集のため病棟へ来られるので、看護サマリは、必ずしも必要とは思っていませんでした。

今後の課題

先月のケアマネージャーに対するアンケートと比較すると、ケアマネと病棟看護師間で看護サマリによる情報共有の考え方や配布状況に相違があることがわかりました。
 双方のアンケート結果をもとに、継続看護の視点から、看護師側が伝達しなければならない情報とケアマネが必要な情報を互いに共有できるよう、情報提供の内容と方法を検討していきたいと思います。